

科目名	看護学教育特論 I			担当教員：○金城 祥教・安酸 史子	
科目名(英語)	Advanced Nursing Education I				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	前期	2~3	研 409 (金城祥教) 看護学科事務室(非常勤講師控室)(安酸)	月曜日・木曜日 7 限 授業の前後 30 分ずつ

1. 授業の概要：

看護の教育的機能や看護教育制度の歴史的変遷を概観しながら、時代の看護に向けられた要請や実践の科学としての看護学の発展、知的集積とその伝承に関する方法について探求する。ケアリング理論に基づくカリキュラムの検討や学生参画型授業の実践的開発を通して自己教育力の育成方法について探求する。

2. 到達目標：

1. わが国の看護教育制度の変遷について理解できる。
2. ケアリングカリキュラムの考え方が理解できる。
3. 自己教育力を育む学生参画型授業の方法論が理解できる。

3. 授業の計画と内容

第 1 週	コースガイダンス 看護の教育的機能について	(金城祥教)
第 2 週	看護教育の特徴(講義, 演習, 実習)とその評価法について	(金城祥教)
第 3 週	教授—学習過程(伝達と対話)の構造について	(金城祥教)
第 4 週	学生参画型授業とその教授法について—その 1	(金城祥教)
第 5 週	学生参画型授業とその教授法について—その 2	(金城祥教)
第 6 週	小集団による協働学習法について—その 1	(金城祥教)
第 7 週	小集団による協働学習法について—その 2	(金城祥教)
第 8 週	技術教育と思考力教育	(金城祥教)
第 9 週	自己教育力の育成とその評価法—その 1	(金城祥教)
第 10 週	自己教育力の育成とその評価法—その 2	(金城祥教)
第 11 週	アメリカの看護教育の改革とケアリングカリキュラム	(安酸史子)
第 12 週	ケアリングカリキュラムとは	(安酸史子)
第 13 週	ケアリングカリキュラムにもとづく看護教育	(安酸史子)
第 14 週	経験型実習教育とケアリングサイクル	(安酸史子)
第 15 週	全体の振り返りと自己評価—他者評価	(金城祥教)

4. テキスト： 杉森みどり・舟島なをみ 「看護教育学 第 4 版増補版」医学書院

参考文献：①舟島なをみ 看護学教育研究—発見・創造・証明の過程 医学書院

②舟島なをみ 監訳「看護学教育における講義・演習・実習の評価」医学書院

③E オリビアベウイス, ジーンワトソン安酸史子監訳「ケアリングカリキュラム—看護教育の新しいパラダイム」医学書院

④関田一彦 監訳「学生参加型の大学授業—協同学習への実践ガイド」玉川大学出版部

5. 準備学習： 教育に関する自己のポートフォリオを準備すること

6. 成績評価の方法：

- ・活動状況 30 点 (評価視点：授業へのコミットメント, 問題発見および解決への努力, プレゼンテーションの適切さ)
- ・レポートの内容 30 点 (評価視点：テーマとの整合性, 論理的な文章構成, 言語表現の適切さ, 文献活用の適切さ)
- ・試験 40 点 (各単元の理解度, 到達目標の充足度)
- ・合計 100 点満点

7. 履修の条件：特になし

8. その他：

科目名	看護学教育特論Ⅱ			担当教員：○金城 祥教・清水 かおり	
科目名(英語)	Advanced Nursing Education II				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	後期	2~3	研 409 (金城) 看研 6 (清水)	月曜日・木曜日 7限 月曜日・木曜日 7限

1. 授業の概要：

学士課程における看護基礎教育で到達すべき「知識」「技能」などの看護実践能力の検討と、継続教育におけるキャリア開発をコンピテンシーモデルの視点から検討する。さらに「成人教育」技法を用いた継続教育プログラムの開発と、これらを基盤とした精神看護学及び成人看護学領域における看護学教育のモデルを講義と演習を通して検討する。

2. 到達目標：

1. 学士課程における看護実践能力の評価方法について理解できる
2. 基礎的な教育技法を用いた継続教育におけるプログラムの開発方法が理解できる。
3. 成人看護学・精神看護学領域における基礎教育から継続教育へのキャリア開発のプロセスが理解できる。
4. 学習者への学習支援の技法に関する理論が理解できる。

3. 授業の計画と内容

第 1 週	コースガイダンス	(金城祥教)
第 2 週	学士課程における看護実践能力に関する文献検討	(清水かおり)
第 3 週	学士課程における自己教育力育成に関する文献検討	(金城祥教)
第 4 週	看護のキャリア開発と継続教育の考え方	(金城祥教・清水かおり)
第 5 週	看護のコンピテンシーモデルによるコーチングスキルの検討	(金城祥教)
第 6 週	成人教育技法を用いた継続教育の方法論—演習 1	(清水かおり)
第 7 週	成人教育技法を用いた継続教育の方法論—演習 2	(清水かおり)
第 8 週	コンピテンシーモデルによる継続教育の方法論—演習 3	(金城祥教)
第 9 週	コンピテンシーモデルによる継続教育の方法論—演習 4	(金城祥教)
第 10 週	精神看護領域におけるエキスパート教育の検討	(金城祥教)
第 11 週	精神看護領域における実践能力評価指標の検討	(金城祥教)
第 12 週	精神看護領域における教育技法の検討	(金城祥教)
第 13 週	高齢者・成人看護学領域における教育技法の検討	(清水かおり)
第 14 週	看護専門制度と認定看護師制度	(金城祥教)
第 15 週	全体の振り返り（自己評価—他者評価の方法について）	(金城祥教・清水かおり)

4. テキスト： ①田島桂子 看護学教育評価の基礎と実際—看護実践能力育成の充実にむけて第 2 版 医学書院
②舟島なをみ「看護教育学研究」発見・創造・証明の過程 医学書院

参考文献： ①舟島なをみ編集「院内教育プログラムの立案・実施・評価」日本型看護職者キャリア・ディベロップメント支援システム」の活用 医学書院島
②井部俊子，中西睦子監修「看護管理学習テキスト④看護における人的資源活用論」日本看護協会出版会
③杉森みど里 監訳 エビデンスに基づく看護学教育 医学書院

5. 準備学習：

6. 成績評価の方法：

- ・活動状況 30 点（評価視点：授業へのコミットメント，問題発見および解決への努力，プレゼンテーションの適切さ）
- ・レポートの内容 30 点（評価視点：テーマとの整合性，論理的な文章構成，言語表現の適切さ，文献活用の適切さ）
- ・試験 40 点（評価視点：各単元の理解度，到達目標の充足度）
- ・合計 100 点満点

7. 履修の条件：看護学教育特論Ⅰを履修済であること

8. その他：

科目名	地域在宅看護学特論 I			担当教員：○稲垣 絹代, 奥西 栄介	
科目名(英語)	Community Care I				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	前期	2~3	研 612 (稲垣絹代) 看護学科事務室 (非常勤講師室) (奥西)	月曜日・木曜日 7限 授業の前後 30分ずつ

1. 授業の概要：

地域在宅看護学で活用される理論や看護モデルを学び、看護実践に活用する方法を検証する。看護と福祉の連携を目指し、社会福祉の立場からの、地域在宅看護学への課題を探究する。

2. 到達目標：

- 地域在宅看護学の歴史的発展が理解できる。
- 地域在宅看護に関連する法や制度が理解できる。
- 地域在宅看護学に活用できる理論やモデルが理解できる。

3. 授業の計画と内容

第 1 週	地域在宅看護学の国内外の歴史の変遷	(稲垣絹代)
第 2 週	地域在宅看護学に関連する制度や法律に関して	(稲垣絹代)
第 3 週	地域在宅看護学に活用できる理論・家族看護モデル	(稲垣絹代)
第 4 週	コミュニティアズ・パートナーモデル	(稲垣絹代)
第 5 週	ケアリング理論とヘルスプロモーション	(稲垣絹代)
第 6 週	パートナーシップと文化理論	(稲垣絹代)
第 7 週	シシリーヘンダーソンとホスピスケア	(稲垣絹代)
第 8 週	緩和ケアと在宅ターミナルケア	(稲垣絹代)
第 9 週	社会福祉からみた高齢社会の変遷と現状	(奥西栄介)
第 10 週	介護保険制度の新たな課題と方向性	(奥西栄介)
第 11 週	地域を拠点にしたケアマネジメントのプロセス	(奥西栄介)
第 12 週	施設におけるケアマネジメントのプロセス	(奥西栄介)
第 13 週	ヘンリーストリートに学ぶ公衆衛生看護	(稲垣絹代)
第 14 週	貧困に関連した国内外の健康課題	(稲垣絹代)
第 15 週	地域在宅看護特論 I のまとめ	(稲垣絹代)

4. テキスト：

- 「COMMUNITY HEALTH NURSING」Judith Ann Allender
「家族生活力量モデル」家族ケア研究会 医学書院
- 「レイニンガー看護論—文化ケアの多様性と普遍性—」, マデリン M.レイニンガー, 医学書院
- 「Health Promotion in Nursing Practice」Nola J.Pender
「シシリー・ソンドース」シャーリードゥブレイ 日本看護協会出版会
- 「ヘンリーストリートの家」リアンウオールド 日本看護協会出版会

5. 準備学習：毎回課題を出すので、次回までに準備をすること。

6. 成績評価の方法：

- ・授業への参画 (討議への積極的参加, 予習, 問題発見, プレゼンテーション) 50点
 - ・レポート (この科目を学んで, 学生自身の研究や今後の看護実践にどう生かせるかをまとめる) 50点
- 合 計 100点満点

7. 履修の条件：

8. その他：

科目名	地域在宅看護学特論Ⅱ			担当教員：○ 稲垣 絹代・大城 凌子・ 比嘉 憲枝	
科目名(英語)	Community Care II				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	後期	2~3	研 612 (稲垣) 看研 13 (大城) 看研 14 (比嘉)	月曜日・木曜日 7限 月曜日・木曜日 7限 月曜日・木曜日 7限 月曜日・木曜日 7限

1. 授業の概要

認知症を持ちながら地域や施設で生活する人々や地域・在宅での困難な事例，島嶼・山間地区の住民，路上生活者，在日外国人など条件不利な人々への援助の実際と課題について，講義と演習を通して探究する。さらに，沖縄北部の地域特性や終末期の在宅看護の実際を学び，倫理的判断・臨床判断に基づき，健康課題を解決するための看護の機能を探究する。

2. 到達目標

認知症についてケアの現状を理解し，質評価の方法を理解する
過疎無医地区や社会的疎外状況にある人々への看護の課題を理解する。
沖縄県北部地域の地域在宅看護の課題と今後の展望について自らの意見をまとめることが出来る。

3. 授業の計画と内容

第 1 週	ガイダンス	地域在宅看護に関する最新の研究と動向	(稲垣絹代)
第 2 週	認知症に関する医学的アプローチとパーソン・センタード・ケア		(稲垣絹代)
第 3 週	小規模多機能，療養通所看護，グループホームなど新たな在宅看護の可能性		(稲垣絹代)
第 4 週	施設・在宅の連携の実際	在宅におけるクリニカルパス展開上の課題	(稲垣絹代)
第 5 週	沖縄北部地域の健康課題について		(大城凌子)
第 6 週	在宅所や在宅におけるターミナル看護の実際 (演習)		(大城凌子)
第 7 週	島嶼部・山間僻地における健康課題		(比嘉憲枝)
第 8 週	島嶼部・山間僻地における看護の実際 (演習)		(比嘉憲枝)
第 9 週	島嶼部・山間僻地における看護の実際 (演習)		(比嘉憲枝)
第 10 週	病院から地域への継続看護及び在宅看護に関する援助技法(演習)		(稲垣絹代)
第 11 週	日本全国の路上生活者の健康問題		(稲垣絹代)
第 12 週	沖縄の路上生活者の施設や公園でのフィールドワーク (演習)		(稲垣絹代)
第 13 週	病院・地域連携についてのフィールドワーク(演習)		(稲垣絹代)
第 14 週	山間へき地や離島でのフィールドワーク (演習)		(稲垣絹代)
第 15 週	沖縄北部地域の地域在宅看護の課題と今後の展望		(稲垣絹代)

4. テキスト・参考文献：

「パーソン・センタード・ケア」トムキッドウッド
「フィールドワークの技法」佐藤郁也 新曜社

5. 準備学習：

毎回，課題を課すので準備してくること。

6. 成績評価の方法：

・授業への参画(討議 演習への積極的参加，予習，問題発見，プレゼンテーション)	50点
・レポート(この科目を学んで，学生自身の研究や今後の看護実践にどう生かせるかをまとめる)	50点
合計	100点満点

7. 履修の条件：

地域在宅看護学特論Ⅰを履修していること。

8. その他：

認知症や他の困難な事例に対する先進的な取り組みを国内外からの文献と演習，フィールドワークを重ねて討議する。研究課題の絞り込みなどにつながる科目なので，学習環境を整えて主体的に関わって欲しい。

科目名	高齢者リハビリテーション看護学特論 I			担当教員： 金城 利雄、永田美和子	
科目名(英語)	Gerontological Rehabilitation Nursing I				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	前期	1~2	研 405	月曜日・木曜日 7限

1. 授業の概要：

摂食・嚥下障害や認知機能低下を持つ高齢障害者とその家族の QOL 向上に必要な看護介入方法について探求する。

2. 到達目標：

摂食・嚥下障害や認知機能低下を持つ高齢障害者の機能障害に関連した最新の看護実践に必要な理論・技術について理解できる。

3. 授業の計画と内容

第 1 週	オリエンテーション	(金城利雄、永田美和子)
第 2 週	摂食・嚥下機能のメカニズム	(金城利雄)
第 3 週	摂食・嚥下機能の検査法	(金城利雄)
第 4 週	摂食・嚥下機能障害とは	(金城利雄)
第 5 週	摂食・嚥下障害の評価法	(金城利雄)
第 6 週	摂食・嚥下障害に対するリハビリテーション	(金城利雄)
第 7 週	非進行性の神経疾患による摂食・嚥下障害	(金城利雄)
第 8 週	神経変性疾患の摂食・嚥下障害	(金城利雄)
第 9 週	摂食・嚥下障害に対する外科的、内科的治療	(金城利雄)
第 10 週	診断と対処法の決定	(金城利雄)
第 11 週	認知症とは	(永田美和子)
第 12 週	認知症のケア 事例検討①	(永田美和子)
第 13 週	認知症のケア 事例検討②	(永田美和子)
第 14 週	認知症のケア 文献抄読①	(永田美和子)
第 15 週	認知症のケア 文献抄読②	(永田美和子)

4. テキスト：

・Jeri A. Logemann 著、道健一他監訳：Logemann 摂食・嚥下障害. 医歯薬出版, 1999, 東京

参考文献：授業の中で、適宜紹介する。

5. 準備学習：

授業は、主体的に学習する姿勢・態度が求められる。プレゼンテーションは、事前に課題を探求し、理解した内容を他者に伝わるように工夫して資料を作成し、発表すること。討議では、プレゼンテーションの内容を踏まえ、内容の理解を深めるとともに、建設的な意見を発表し、積極的に討議すること。

6. 成績評価の方法：

- ・プレゼンテーション 50 点 (評価視点：事前学習・資料作成の努力, 問題発見・解決の努力, 発表の適切さ, 討議への参画度)
- ・レポートの内容 30 点 (評価視点：テーマとの整合性, 論理的な文章構成, 言語表現の適切さ, 文献活用の適切さ)
- ・試験 20 点 (評価視点：各単元の理解度, 到達目標の充足度)
- ・合計 100 点満点

7. 履修の条件： 特になし

8. その他：

科目名	高齢者リハビリテーション看護学特論Ⅱ			担当教員：金城 利雄																																														
科目名(英語)	Gerontological Rehabilitation NursingⅡ																																																	
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー																																													
2	1	後期	1～2	研 405	月曜日・木曜日 7限 火曜日・金曜日 7限																																													
<p>1. 授業の概要：</p> <p>様々な場で生活する高齢者のセルフケア能力や QOL を維持・向上する上で必要な高度な看護実践能力を養う。特に、摂食・嚥下機能障害や排泄機能障害の機能回復に対する看護実践方法の開発について、講義と演習を通して探求する。</p> <p>2. 到達目標：</p> <p>生活機能の低下した高齢者の生活適応に向けたセルフケア能力の回復や QOL を維持・向上を支援する看護方法の開発に必要な知識・技術について理解できる。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <table border="0"> <tr> <td>第 1 週</td> <td>生活機能障害評価の意義</td> <td>(金城利雄)</td> </tr> <tr> <td>第 2 週</td> <td>日常生活活動評価の種類と方法</td> <td>(金城利雄)</td> </tr> <tr> <td>第 3 週</td> <td>運動機能障害評価と支援方法</td> <td>(金城利雄)</td> </tr> <tr> <td>第 4 週</td> <td>運動機能障害評価と支援方法【演習】</td> <td>(金城利雄)</td> </tr> <tr> <td>第 5 週</td> <td>高次脳機能障害評価と支援方法</td> <td>(金城利雄)</td> </tr> <tr> <td>第 6 週</td> <td>摂食・嚥下障害評価と支援方法①</td> <td>(金城利雄)</td> </tr> <tr> <td>第 7 週</td> <td>摂食・嚥下障害評価と支援方法②</td> <td>(金城利雄)</td> </tr> <tr> <td>第 8 週</td> <td>摂食・嚥下障害評価と支援方法【演習】</td> <td>(金城利雄)</td> </tr> <tr> <td>第 9 週</td> <td>摂食・嚥下障害評価と支援方法【演習】</td> <td>(金城利雄)</td> </tr> <tr> <td>第 10 週</td> <td>摂食・嚥下障害評価と支援方法【演習】</td> <td>(金城利雄)</td> </tr> <tr> <td>第 11 週</td> <td>摂食・嚥下障害評価と支援方法【演習】</td> <td>(金城利雄)</td> </tr> <tr> <td>第 12 週</td> <td>摂食・嚥下障害評価と支援方法【演習】</td> <td>(金城利雄)</td> </tr> <tr> <td>第 13 週</td> <td>排尿・排便障害評価と支援方法</td> <td>(金城利雄)</td> </tr> <tr> <td>第 14 週</td> <td>排尿・排便障害評価と支援方法【演習】</td> <td>(金城利雄)</td> </tr> <tr> <td>第 15 週</td> <td>排尿・排便障害評価と支援方法【演習】</td> <td>(金城利雄)</td> </tr> </table> <p>4. テキスト：</p> <p>・小澤利男，他編：高齢者の生活機能評価ガイド．医歯薬出版，1999，東京</p> <p>参考文献： 授業の中で、適宜紹介する。</p> <p>5. 準備学習：</p> <p>授業は、主体的に学習する姿勢・態度が求められる。プレゼンテーションは、事前に課題を探求し、理解した内容を他者に伝わるように工夫して資料を作成し、発表すること。討議では、プレゼンテーションの内容を踏まえ、内容の理解を深めるとともに、建設的な意見を発表し、積極的に討議すること。</p> <p>6. 成績評価の方法：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーション 50 点 (評価視点：事前学習・資料作成の努力，問題発見・解決の努力，発表の適切さ，討議への参画度) ・レポートの内容 30 点 (評価視点：テーマとの整合性，論理的な文章構成，言語表現の適切さ，文献活用の適切さ) ・試験 20 点 (評価視点：各単元の理解度，到達目標の充足度) ・合計 100 点満点 <p>7. 履修の条件：</p> <p>特になし</p> <p>8. その他：</p>						第 1 週	生活機能障害評価の意義	(金城利雄)	第 2 週	日常生活活動評価の種類と方法	(金城利雄)	第 3 週	運動機能障害評価と支援方法	(金城利雄)	第 4 週	運動機能障害評価と支援方法【演習】	(金城利雄)	第 5 週	高次脳機能障害評価と支援方法	(金城利雄)	第 6 週	摂食・嚥下障害評価と支援方法①	(金城利雄)	第 7 週	摂食・嚥下障害評価と支援方法②	(金城利雄)	第 8 週	摂食・嚥下障害評価と支援方法【演習】	(金城利雄)	第 9 週	摂食・嚥下障害評価と支援方法【演習】	(金城利雄)	第 10 週	摂食・嚥下障害評価と支援方法【演習】	(金城利雄)	第 11 週	摂食・嚥下障害評価と支援方法【演習】	(金城利雄)	第 12 週	摂食・嚥下障害評価と支援方法【演習】	(金城利雄)	第 13 週	排尿・排便障害評価と支援方法	(金城利雄)	第 14 週	排尿・排便障害評価と支援方法【演習】	(金城利雄)	第 15 週	排尿・排便障害評価と支援方法【演習】	(金城利雄)
第 1 週	生活機能障害評価の意義	(金城利雄)																																																
第 2 週	日常生活活動評価の種類と方法	(金城利雄)																																																
第 3 週	運動機能障害評価と支援方法	(金城利雄)																																																
第 4 週	運動機能障害評価と支援方法【演習】	(金城利雄)																																																
第 5 週	高次脳機能障害評価と支援方法	(金城利雄)																																																
第 6 週	摂食・嚥下障害評価と支援方法①	(金城利雄)																																																
第 7 週	摂食・嚥下障害評価と支援方法②	(金城利雄)																																																
第 8 週	摂食・嚥下障害評価と支援方法【演習】	(金城利雄)																																																
第 9 週	摂食・嚥下障害評価と支援方法【演習】	(金城利雄)																																																
第 10 週	摂食・嚥下障害評価と支援方法【演習】	(金城利雄)																																																
第 11 週	摂食・嚥下障害評価と支援方法【演習】	(金城利雄)																																																
第 12 週	摂食・嚥下障害評価と支援方法【演習】	(金城利雄)																																																
第 13 週	排尿・排便障害評価と支援方法	(金城利雄)																																																
第 14 週	排尿・排便障害評価と支援方法【演習】	(金城利雄)																																																
第 15 週	排尿・排便障害評価と支援方法【演習】	(金城利雄)																																																

科目名	母性看護学特論 I			担当教員：小西 清美	
科目名(英語)	Advanced Maternal and Family Nursing I				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	前期	2~3	看研7	火曜日・木曜日7限

1. 授業の概要：

母性看護学の既存の理論を踏まえ、将来出産を迎える思春期女性、妊産褥婦、更年期女性等の課題を把握し、その課題を解決するための看護実践方法、理論、研究方法を探究する。

2. 到達目標：

- ①女性や、母性に生じているさまざまな健康問題を認識し看護に結びつけることができる。
- ②女性、母性の問題を看護の視点からどのように研究テーマとして取り上げ解決策を探るためにどのような研究をしているか文献を通し習得することができる。
- ③様々な看護研究をとおして自分自身の看護研究テーマの問題解決の糸口を見出すことができる。
- ④論理的に研究仮説を立て、それを立証する方法の一端を学習する。

3. 授業の計画と内容

- 第 1 週 母性看護学特論 I ガイダンス (主旨と進め方)
- 第 2 週 母性看護の動向
- 第 3 週 母性看護と倫理
- 第 4 週 女性の社会問題と看護
- 第 5 週 周産期の看護実践の課題
- 第 6 週 思春期女性の問題 (月経, 性病, 拒食症, 逸脱行動等) と看護の関連文献とクリティーク
- 第 7 週 妊婦の問題と看護の関連文献のクリティーク
- 第 8 週 産婦の問題と看護の関連文献のクリティーク
- 第 9 週 褥婦の問題と看護の関連文献のクリティーク
- 第 10 週 育児中の女性の問題と看護の関連文献のクリティーク
- 第 11 週 不妊女性の問題と看護の関連文献のクリティーク
- 第 12 週 更年期女性の問題と看護の関連文献のクリティーク
- 第 13 週 助産師の専門性 1 (男性助産師問題および内診問題、助産師業務に関する現状・課題)
- 第 14 週 助産師の専門性 2 (助産師のコンペテンシーと院内助産所と助産師外来)
- 第 15 週 母性看護学特論 I の総括

4. テキスト：

参考文献： 各種母子関係学会誌 助産学会誌, 母性衛生, 小児保健, 日本新生児学会誌, 日本小児看護学会誌等

5. 準備学習：

授業は、文献クリティークと質疑・討論を組み合わせて行う。各テーマについて、学生は自分の研究課題に関連したテーマや関心のあるテーマについて選択し、そのテーマに関する関連文献を前週に他受講生に提供し読んできてもらい講義中に討論する形式をとる。そのため discussion のための文献探索とその文献の準備が必要となる。

6. 成績評価の方法：

- ・事前の資料準備と授業への参画度 70 点 (評価視点：授業へのコミットメント, 問題発見および解決への努力, プレゼンテーションの適切さ)
- ・終了レポートの内容 15 点 (評価視点：テーマとの整合性, 論理的な文章構成, 言語表現の適切さ, 文献活用の適切さ)
- ・試験 15 点 (評価視点：各単元の理解度, 到達目標の充足度)
- ・合計 100 点満点

7. 履修の条件： 特になし

8. その他：

科目名	母性看護学特論 II			担当教員：小西 清美	
科目名(英語)	Advanced Maternal and Family Nursing II				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	後期	2~3	看研 7(小西)	火曜日・木曜日 7限
<p>1. 授業の概要：</p> <p>各ライフステージにある女性や周産期における母子および家族の健康問題をアセスメントし、根拠に基づいた効果的な援助法を、講義と演習を通して探究する。さらに、助産をめぐる沖縄県北部地域の母性の健康課題について探求する。事例の検討を通して母性看護の今日的課題について明確にする。その上で母性看護に必要な看護技術の開発と課題解決のための方法について探求する。</p> <p>2. 到達目標：</p> <p>①女性、母性の健康問題に関する効果的な援助法を考察する。 ②様々な看護研究を文献や学生同士の発表をとおして、根拠に基づく援助法を探求する。 ③自分の日ごろ感じている看護問題の事例を明確にする。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <p>第 1 週 女性ホルモンの変動と自律神経の活動 第 2 週 月経前症候群や月経困難症の健康問題に対する援助法 第 3 週 自然分娩法を促進する心地よい援助法 第 4 週 褥婦の睡眠と疲労に関する援助法 第 5 週 褥婦の母乳哺育支援に関する援助法 第 6 週 日本と沖縄県における産育の歴史と継続および衰退した風習【演習】 第 7 週 戦争・災害時の出産・育児とその援助と方法【演習】 第 8 週 沖縄県で現在も行われている産育風習と助産師としての援助【演習】 第 9 週 産む力をはぐくむ助産ケア 1【演習】 第 10 週 産む力をはぐくむ助産ケア 2【演習】 第 11 週 産む力をはぐくむ助産ケア 3【演習】 第 12 週 助産外来の検診技術 1【演習】 第 13 週 助産外来の検診技術 2【演習】 第 14 週 助産外来の検診技術 3【演習】 第 15 週 母性看護学特論 II の総括</p> <p>4. テキスト：特に指定なし</p> <p>参考文献：「ウイメンズヘルスナーシング概論」, ヌーヴェルヒロカワ 「母乳育児の看護学」, メディカ出版 各種母子関係学会誌 助産学会誌, 母性衛生, 女性心身医学誌等 「産む力をはぐくむ助産ケア」 メディカ出版 「助産外来の検診技術」 医学書院</p> <p>5. 準備学習：</p> <p>授業は、プレゼンテーションと質疑・討論、演習を行う。各テーマについて、学生は母性看護学特論 I で選択した研究課題に関連したテーマや関心のあるテーマについてパワーポイントでプレゼンテーションしてもらいその後討論する形式をとる。そのためプレゼンテーションのための文献探索や、データー収集、日常生活・臨床場面での経験のまとめ等の準備が必要となる。</p> <p>6. 成績評価の方法：</p> <ul style="list-style-type: none"> 事前の資料準備と授業への参画度 80 点 (評価視点：授業へのコミットメント, 問題発見および解決への努力, プレゼンテーションの適切さ) 終了レポートの内容 20 点 (評価視点：テーマとの整合性, 論理的な文章構成, 言語表現の適切さ, 文献活用の適切さ) 合計 100 点満点 <p>7. 履修の条件：母性看護学特論 I を履修済であること</p> <p>8. その他：</p>					

科目番号	科目名	小児看護学特論 I		担当教員： 金城やす子 松下聖子	
	科目名(英語)	Child and Family Health Nursing I			
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	前期	2～3	看研 10	火曜日 5 限

1. 授業の概要：

子どもとその家族が置かれているさまざまな状況を理解し、特に子どもの倫理的側面として、児童の権利条約の理念に基づいた健康生活について探求し、子どもの生きる権利の擁護に関する課題と方法について探求する。また、関連領域の研究のクリティークを行い、小児看護学領域の研究の動向と課題を探求する。

2. 到達目標：

小児看護を実践していく上で必要な子どもと家族の健康問題について理解できる
医療や看護の場における子どもと家族の倫理について考え、現状の課題を明確にすることができる
小児看護学の研究に関する動向について学ぶことができる

3. 授業の計画と内容

第 1 週 (4月 15日)	小児看護学特論ガイダンス
第 2 週 (22日)	対象特性と小児看護の動向
第 3 週 (5月 6日)	小児看護と倫理
第 4 週 (5月 13日)	児童の権利条約
第 5 週 (20日)	医療の場と子どもの倫理(事例検討) 1
第 6 週 (27日)	医療の場と子どもの倫理(事例検討) 2
第 7 週 (6月 3日)	医療の場と子どもの倫理(事例検討) 3
第 8 週 (10日)	臓器移植と子どもの倫理
第 9 週 (17日)	小児看護研究の推移
第 10週 (24日)	小児看護関連の論文クリティーク 1
第 11週 (7月 1日)	小児看護関連の論文クリティーク 2
第 12週 (8日)	小児看護関連の論文クリティーク 3
第 13週 (15日)	小児看護関連の論文クリティーク 4
第 14週 (22日)	小児看護学を研究するとは
第 15週 (29日)	まとめ

4. テキスト：

参考文献： 講義の中で提示する

5. 準備学習：

グループディスカッション形式で授業を進めるため、担当者は事前に資料作成・配布すること、配布された資料について各自で検討しておくこと

論文クリティークでは、必ず論文を事前にクリティークし、資料として配布すること

6. 成績評価の方法：

- ・事前の資料準備と演習への参画度（評価視点：課題学習の準備および提出状況、事前学習の内容） 50点
- ・終了レポートの内容（評価視点：テーマとの整合性、論理的な文章構成、文献活用の適切性） 50点
- ・合 計 100点満点

7. 履修の条件：

小児看護に興味がある者

8. その他：

授業は、ディスカッション形式ですすめるため、事前学習が重要となる。事前学習に十分取り組むこと

科目番号	科目名	小児看護学特論Ⅱ			担当教員： 金城やす子 松下聖子	
	科目名(英語)	Child and Family Health Nursing II				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー	
2	1	後期	2～3名	看研 10	月曜日 3限、木曜日 3限	

1. 授業の概要：

小児看護がもつさまざまな課題を広い視野から理解し、子どもとその家族の健康保持・増進のための援助の方向性について探求する。また、小児看護の諸側面における適切な援助方法を探究し、その効果を査定する能力を修得する。

2. 到達目標：

子どもと家族の健康問題を把握し、健康の保持・増進に向けた支援について理解することができる
さまざまな状況にある子どもの支援について検討し、小児看護実践の方法を習得することができる

3. 授業の計画と内容 [月曜日 5限]

第 1 週(10/28)	小児看護学特論 2 のガイダンス	(金城・松下)
	子ども観の変遷について、時代背景による子どもの社会的な見方や扱い方について	
第 2 週(11/11)	社会における子どもの存在、(子どもの生活する環境について)	(金城)
第 3 週(11/18)	入院児を取り巻く状況 (社会保障や経済的支援、法制度、在宅レスパイトサービス)	(金城)
第 4 週(11/25)	健康障害のある子どもの支援 ① 小児看護の動向	(松下)
第 5 週(12/ 8)	健康障害のある子どもの成長発達支援 (演習)	(金城・松下)
第 6 週(12/ 8)	健康障害のある子どもの成長発達支援 (演習)	(金城・松下)
第 7 週(12/ 2)	障害のある子どもへの支援 (障害のある子どもの看護に必要な障害理解について)	(松下)
第 8 週(12/ 9)	障害のある子どもへの支援 (医療的ケアとは、看護支援の現状)	(松下)
第 9 週(12/16)	健康障害のある子どもの成長発達支援 (子どもの教育を受ける権利、特別支援教育：院内学級について)	(金城)
第 10 週(1/12)	健康障害のある子どもの成長発達支援 (演習)	(金城・松下)
第 11 週(1/12)	健康障害のある子どもの成長発達支援 (演習)	(金城・松下)
第 12 週(1/20)	健康障害のある子どもの成長発達支援 (医療保育とは、他職種連携、プレパレーション)	(金城)
第 13 週(1/27)	健康障害のある子どもの成長発達支援 (先進医療と移植医療)	(金城)
第 14 週(2/ 3)	育児支援、子どもの生活リズム形成	(金城)
	これまで実施した調査研究結果を基に、子どもの生活リズム形成について概説し、ディスカッションをおこなう	
第 15 週(2/10)	まとめ (総合討論)	(金城)

4. テキスト：

参考文献： 講義の中で適宜提示します

5. 準備学習：

文献の提示、レポート作成等の課題を提示するため、提出すること

6. 成績評価の方法：

・事前学習	30点
・課題レポートの内容	20点
・演習への参画	20点
・プレゼンテーションおよびディスカッションの内容	30点
・合計	100点満点

7. 履修の条件：小児看護学特論 1 を受講していること

8. その他：

グループディスカッションを中心にすすめるため、事前学習を十分に行うこと

科目名	精神看護学特論 I			担当教員：鈴木 啓子	
科目名(英語)	Psychiatric and Mental Health Nursing I				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	前期	2～3	看研 17	火曜日・金曜日 7 限

1. 授業の概要:

精神看護学の実践の基礎となる対象理解のための基礎理論を学ぶ。精神の機能状態の評価方法について学び、看護介入の基本として、精神状態のアセスメント技術と対人関係技術を習得する。合わせて精神的健康に関する知識およびライフサイクルにおける対象者の心理・社会的問題、危機的状況における看護アセスメントについて学ぶ。

2. 到達目標:

- ① Bio-Psycho-Social モデルを用いた精神保健福祉医療システムの理解ができる。
- ② 対人関係論、精神力動看護論に基づき、治療的関係の展開と自我機能・防衛機制について理解を深める。
- ③ 精神疾患の病態や生理を理解し、最新の知識をふまえた治療および看護方法について理解を深める。
- ④ ライフサイクルに沿って生じる人の精神的諸問題・危機について探求する。

3. 授業の計画と内容

- 第 1 週 コースガイダンス・精神看護学の基盤となる諸理論
- 第 2 週 精神看護学に関連する制度や法律
- 第 3 週 精神看護学に活用できる理論・モデル総論
- 第 4 週 Bio-Psycho-Social モデル・セルフケアモデル
- 第 5 週 対人関係論・精神力動理論（自我機能と防衛機制）
- 第 6 週 精神状態とアセスメント
- 第 7 週 精神機能、家族機能、社会機能のアセスメント
- 第 8 週 精神科薬物療法
- 第 9 週 統合失調症の診断と治療
- 第 10 週 感情障害の診断と治療
- 第 11 週 適応障害・人格障害の診断と治療
- 第 12 週 災害・事故・事件後の PTSD の診断と治療
- 第 13 週 自殺をめぐる問題と支援
- 第 14 週 DV・虐待をめぐる問題と支援
- 第 15 週 精神看護特論 I のまとめ

4. テキスト：野末聖香編著（2004）「リエゾン精神看護—患者ケアとナース支援のために」医歯薬出版株式会社

参考文献：G.W.Start et.al.(2005) "Principles and Practice of Psychiatric Nursing" 8th edition, MOSBY.

(安保寛明・宮本有紀監訳「看護学名著シリーズ—精神科看護—原理と実践」原著第 8 版)

5. 準備学習：各テーマに関する自己学習とプレゼンテーションに基づき、参加者相互によるディスカッションを行い理解を深める。毎回課題があるので、次回までに準備をすること。

6. 成績評価の方法：

- ・活動状況（評価視点：授業へのコミットメント、問題発見および解決への努力、プレゼンテーションの適切さ）50 点
- ・レポートの内容（評価視点：テーマとの整合性、論理的な文章構成、言語表現の適切さ、文献活用の適切さ）50 点
- ・合計 100 点満点

7. 履修の条件：特になし

8. その他：

科目名	精神看護学特論Ⅱ			担当教員：○ 鈴木 啓子・伊礼 優 平上 久美子	
科目名(英語)	Psychiatric and Mental Health Nursing II				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	後期	2~3	看研 17(鈴木) 看研 18(伊礼)	火曜日・金曜日 7限 火曜日・金曜日 7限

1. 授業の概要:

現在の精神保健医療福祉の動向と社会的ニーズを踏まえ、精神的健康問題を抱える人、その家族および集団に対して、精神看護学の基礎的な諸理論や知識を用いた看護介入方法または、治療的介入方法を講義と演習を通して探究する。また、この過程において患者の人権を擁護するための倫理的判断能力を培う。

2. 到達目標:

- ①精神看護の実践の基盤となる看護理論を理解できる。
- ②精神的健康の維持・増進のための援助技術の活用について実際の事例をとおして検討できる。
- ③精神的健康問題を抱える人々の人権を擁護するための臨床的判断について検討し、今後の課題を考えることができる。

3. 授業の計画と内容

第 1 週	コースガイダンス・精神医療福祉の動向と社会的ニーズ	(鈴木啓子)
第 2 週	リハビリテーション看護と精神医療・福祉	(伊礼優)
第 3 週	精神障害者とその家族の QOL	(伊礼優)
第 4 週	精神看護技術論	(鈴木啓子)
第 5 週	セルフケア理論	(鈴木啓子)
第 6 週	認知行動療法—うつ病の患者を対象とした認知療法を用いた介入方法の実技演習—	(鈴木啓子)
第 7 週	S S T・心理教育—統合失調症の患者および家族を対象とした SST・心理教育を用いた介入方法の実技演習—	(鈴木啓子)
第 8 週	グループダイナミクスを活用した支援—症状マネジメントに焦点を当てた介入方法の実技演習—	(鈴木啓子)
第 9 週	精神科における危機介入・危険防止—攻撃や暴力の事例を想定した介入方法の実技演習—	(鈴木啓子)
第 10 週	看護職のメンタルヘルス	(鈴木啓子)
第 11 週	精神科救急医療における看護	(伊礼優)
第 12 週	司法精神看護	(伊礼優)
第 13 週	医療チームにおける看護専門職の役割と他職種との連携	(伊礼優)
第 14 週	精神医療看護福祉における倫理的看護問題と看護師の臨床判断—倫理的ジレンマを感じる臨床の状況に関する事例検討—	(鈴木啓子)
第 15 週	沖縄県における精神看護の課題と今後の展望	(伊礼優)

4. テキスト：野末聖香編著 (2004) 「リエゾン精神看護—患者ケアとナース支援のために」 医歯薬出版株式会社

参考文献：G.W.Start et.al.(2005) ” Principles and Practice of Psychiatric Nursing"8th edition,MOSBY.

(安保寛明・宮本有紀監訳「看護学名著シリーズ—精神科看護—原理と実践」原著第 8 版)

5. 準備学習： 毎回、課題を課すので準備してくること。

6. 成績評価の方法：

- ・活動状況 (評価視点：授業へのコミットメント, 問題発見および解決への努力, プレゼンテーションの適切さ) 50 点
- ・レポートの内容 (評価視点：テーマとの整合性, 論理的な文章構成, 言語表現の適切さ, 文献活用の適切さ) 50 点
- ・合 計 100 点満点

7. 履修の条件：精神看護学特論Ⅰを履修していること。

8. その他：精神医療看護福祉の問題について臨床や地域からの先進的な取り組みを紹介しつつ、ゲストを交えて討議する。